





国語問題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

- 1 この問題用紙は十九ページまである。
- 2 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合し確認すること。
- 3 解答用紙の所定の欄に氏名を記入すること。
- 4 解答は、すべて解答用紙の所定の欄にマークするか、または所定の欄に楷書で記述すること。(解答用紙は表裏両面にある)
- 5 解答は、必ずHBの黒鉛筆を使用すること。
- 6 訂正は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
- 7 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。また所定以外のところには、絶対に記入しないこと。
- 8 問題に指定された数より多くマークしないこと。
- 9 解答用紙は、持ち帰らないこと。
- 10 この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
- 11 この試験時間は、六〇分である。

(マークの記入例)

良い例	悪い例
	  

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

ふつう言語についてメタ言語ということがいわれる。言語が言語自身について反省したり語ったりするという場合、語られる言語のほうがオブジェクト言語(対象言語)、語る言語のほうがメタ言語というふうに理解されている。考えるということ自体、人間の場合は反省的思考を特徴とするから、メタという性格をもっている。しかし、それはなにも言語とか思考だけの問題ではないのではないか、ということも、少し考えてみたい。

たとえば、感覚についてもやはりわれわれはメタ的なのではないか。つまり、われわれがふつう感覚と呼んでいるものは、動物レヴェルの感覚とはおそらく異なったメタ性を帯びているのではないか。味覚を考えてみよう。動物は、食べられるものと食べられないもの、新鮮なものと腐って害になるものを鋭敏に区別する。ところが、この実用的味覚のレヴェルをあらわす言葉は日本語にはない。「味わう」という言葉はあるが、味わうというのは、食べるものとの間にある距離をにおいて、味覚そのものを楽しむという、メタ的な性格を帯びている。「舌の上でころがす」というのも、この距離をより強調した表現にはかならない。つまり「味わう」という言葉は「食べる」という直接性を少しはなれた表現といえよう。同じく「味を」A「というの」A「というのは、その感覚自体を楽しむことをあらわすのに使う。たとえば」B「という言葉に対して、香り」A「である。」B「は、自分にとつて危険であるとか、腐っているとかが、そういう実用的な弁別をすることだが、」A「は、香りや匂いそのものを楽しむ、そういう意味をもっている。「味を見る」も似ているが、こちらは「味わう」前に味を試すのである。聴覚については、直接的な利害・関心をもって聞くのも」A「ことを楽しむというのも」A「という。漢字を使った場合は、「聞く」と「聴く」は、英語の hear と listen のちがいに似ている。「聴く」というと、ついピクターの頭をかきあげた犬のシンボル・マークを思い浮べてしまう。「耳を傾ける」というわけだ。ただこの場合は、聴覚にとらえるだけでなく、「傾ける」というところに、なにか聴く快樂に身をまかせる要素が感じられる。

それからもう少しいろいろなレヴェルがミックスした深いとらえ方を「A」ということがある。宇佐見英治さんの本の表題、『石に聴く』などはその例だろう。これは現実には石に触ったり見たりすることだろうが、そこには、石の言葉が大きくというニュアンスがある。野口体操の野口三千三さんや、舞踏の岩名雅記さんなども、よく「体」^A「という言葉を使われる。「味わう」や「^A」は、日本語の場合、かなりメタ的性格が強いのではないだろうか。また「^C」という言葉は直接的だが、触ることを楽しむのは「^D」だろう。これは手触りを楽しむのである。それから「^E」場合も、やはり「^D」という言葉がそれにあたるように思われる。つまり、見て楽しむというわけだ。単なる感覚をこえて、愛し、いとおしむ。

本来、人間の感覚自体、そういう直接的な感覚から距離をとって、感覚そのものを楽しむという性格をもっている。それをさらに記号化することによって芸術作品をつくりだす場合、芸術作品という記号体そのものは直接的な実用性をもたないから、それだけに「味わう」とか、「^A」とか、「^B」とか、「^C」という、感覚そのものを享受する性格をはつきりあらわすことができる。つまりわれわれは世界から距離をとり、そして世界について考えるだけではなく、世界について感覚し、楽しみ、世界を愛する。こうした人間の特徴は、芸術作品に典型的にあらわれている。

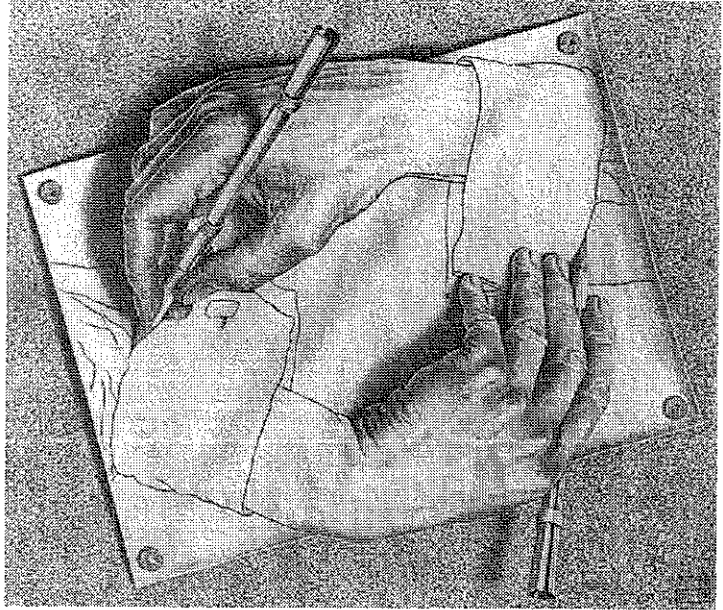
科学ももちろんそういう性格はもっている。科学的な知は、けっして直接的な利害関係だけでできあがっているわけではない。しかしやはり実際に役に立つという面、つまり技術と科学は、ヨーロッパの近代科学の発生を見ても、ほとんど切り離すことができない。科学が検証可能性を追求するのは、結局検証された知は自然を操作し、同じ結果を再現するのに役立つからである。それに対して、芸術作品はたしかに人を動かすあるパワーをもっているけれども、必ずしも実用的なものとはいえない。ただ^①実用的という意味自体、すでに人間の場合には変わってきている。逆説的なようだが、芸術作品の実用的パワーをもつともよく直観しているのは、独裁者である。ほとんどの独裁者は、芸術と思想の自由な表現を弾圧する。ある意味で「ペンは剣より強く」、危険な力をもっているからである。(中略)ともあれ^②記号化された作品は、それ自体すでに感覚に対してメタである。

ところが、近代になると記号体としての作品が、^③こんどは作品自体に対してメタの視点をとることが起こってくる。『ドン・キホーテ』は騎士物語に対するメタである。それが近代小説のはしりとなる。あるいは、ベラスケスの『宮廷の侍女たち』は、絵画の中に絵を描いているベラスケス自身とその鏡に映った姿を描き出す。こうした自己批評性を含んだ芸術が、近代芸術の基本的な特徴になる。美術では、マルセル・デュシャンが絵画という制度だけではなく、見ることに含まれた制度を批判する。あるいは聴くこと、つまり音楽そのものの制度を批判するという形でジョン・ケージのような作曲家が出てくる。また小説についても、書くことについての小説といった形で、^④ブルーストやジッドがメタの視点を小説に内蔵させる。こうした自己言及的な構造をもっているのが人間の文化の特徴だろう。

あたりまえのことだが、人間は生物学的であると同時に文化的存在なのだ。したがって人間にとっての環境は、いわゆる物理的環境あるいは生物的環境であるばかりではなく、すでに文化的環境である。だから、さきほど直接的な実用性がないといったが、実は実用性という言葉の内容自体が変わっているわけだ。人間の有用性には、文化的な実用性というか、必要性がすでに含まれている。人はパンなしに生きることができないが、パンのみで生きることができない。

このような自己言及的なメタ構造は、人間がいろいろな難問に巻き込まれるものになる。われわれは自分自身、世界に、すで、に、事、実、上ありながら、なぜあるのか、あるいはあることの根拠を問うたりする。世界の中にすでに含まれていながら、あたかも世界の外にあるかのように世界全体について問うという X が出てくる。周知のように、ゴーギャンの晩年の作品に、『われわれはどこから来たのか、われわれは何ものか、われわれはどこへ行くのか』というタイトルの大作がある。これはおそらく人間あるいは芸術家の究極的な問いであり、そこに人間のメタ＝フィジカルな X が生ずる源があるといえるだろう。

しかし自己批評を含んだ問いが作品化された場合、メタというのは必ずしもそれほど明確ではない。つまり、作品についての問いが作品になつていても、そのもとの作品と、作品についての問いを含んだ作品というのは、見る者にとっては同一平面にある。メタという自己言及的構造をとりながら、それ自体が対象のレヴェルに溶けてしまう。美術にしる、音楽にしる、演劇や舞踊にしる、そういう難問をかかえている。エッシャーの有名な作品、紙の上に立ち上った手が紙の上に手を描い



エッシャー「描く手」

ている、そしてその手はもう一つの手によって描かれている……という絵は、そういう循環を巧みに表現しているといえよう。^⑤この絵の面白さは、そのアイデアを楽しんでいるうちに、だんだん身につまされてくるような面白さである。

現代芸術は自己言及の X を含んでいて、そしてそのためにかえって痩せていってしまった、あるいは袋小路に入ったといわれる。しかしもしそれをいうなら、人間の思考とか感覚そのものもつ余剰としてのメタ性を問題にしなければならぬだろう。現代の芸術がぶつかっている問題というのは、けっして過去に戻ればよいというようなものではない。われわれが文明的にぶつかっている問題、知性が生命をおびやかす、人間が人間自身を破壊するところまで行ってしまおうという、いわば人間の利点がそのままマイナス点になるという自己矛盾の一つだといえよう。

(市川浩『身体論集成』による)

問一 本文には次に示す一文が抜けている。この文が入る箇所の直前の十文字を抜き出して本文を完成させなさい。ただし、句読点も字数に含むものとする。

だからこそ「知は力である」といういい方がされる。

問一 本文中の空欄A～Eに入る語の組み合わせのうち最も適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | A | みる | B | きく | C | めです | D | さわる | E | かぐ |
| 2 | A | みる | B | かぐ | C | きく | D | めです | E | さわる |
| 3 | A | みる | B | かぐ | C | さわる | D | めです | E | きく |
| 4 | A | きく | B | みる | C | めです | D | さわる | E | かぐ |
| 5 | A | きく | B | かぐ | C | さわる | D | めです | E | みる |

問二 傍線①「実用的」という意味自体、すでに人間の場合には変わってきている」とあるが、どのように変わってきているのか。その説明としても最も適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 すぐ役立つという直接的な実用性から、様々な回り道を介して影響を及ぼすという間接的な実用性になってきた。
- 2 誰に対しても一様に有用であった実用性が、次第に実用の種類が増えることで利害が対立するようになってきた。
- 3 単に生存や生活に役立つだけでなく、学問・芸術・宗教といった人間の精神活動にまで実用性が拡張されてきた。
- 4 支配者の独裁的統治に役立つという意味の実用性が、民衆にとって役立つという民主的な意味合いに変わってきた。
- 5 個人や個体のみに関立つという次元を超えて、集団や社会全体に関立つという普遍的な実用性に変質してきた。

問四 傍線②「記号化された作品は、それ自体すでに感覚に対してメタである」とあるが、これはどういうことか。その説明としてみっとも適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 芸術作品は、実用性とは無関係に感覚そのものの本質を浮き彫りにし、感覚世界自体を楽しむ営みであるというこ
と。
- 2 芸術作品は、直接的な利害や損得が問題になる感覚的な世界に根を持ち、それを全面的に肯定する営みだというこ
と。
- 3 芸術作品は、一段高いレヴェルから感覚上の誤りを正し、認識のあり方を批判していく役割を持っているというこ
と。
- 4 芸術作品は、視覚や聴覚といった感覚的な世俗世界をまったく超越した空想的世界を創造する営みであるというこ
と。
- 5 芸術作品は、感覚に基づいた具体的なリアリティーを持つ現実に対して、ヴァーチャルな虚構世界であるというこ
と。

問七 空欄Xには、いずれも同じ語が入る。その語としてもっとも適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 パラドックス
- 2 ダイナミズム
- 3 アイロニー
- 4 メタファー
- 5 シニシズム

問八 傍線⑤「この絵の面白さは、そのアイディアを楽しんでいるうちに、だんだん身につまされてくるような面白さである」とあるが、なぜ「身につまされてくる」のか。その理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 芸術が自己言及性に絡め取られた結果、瘦せ細り袋小路にはまっていることに気付かされるから。
- 2 鑑賞者の芸術に対する無理解や感性の欠如を、作品を見ていると次第に思い知らされていくから。
- 3 自らが産み出したものによつて自らの危機を招いている人類の自縄自縛の状態が自覚させられるから。
- 4 絵の解釈に集中しているうちに、次第にめまいを催すような身体的な快楽に捕われていくから。
- 5 最初のうちは絵を対象として楽しんでいても、やがて絵の世界に体ごと入り込んでしまうような錯覚に陥るから。

問九 傍線⑥「人間の思考とか感覚そのものもつ余剰としてのメタ性」とあるが、課題文全体の趣旨から考えて、筆者は「メタ性」をどのようなものとして捉えているか。次のうちからもっとも適切なものを一つ選びなさい。

- 1 対象のあるがままを受け容れるのではなく、高みから客観的に観察し批判しようとする立場
- 2 対象を実用的なものとして利用するのではなく、それが存在する意味を哲学的に考察する態度
- 3 対象そのものに向かいながらも、対象を扱う主体が自らの能力や立脚点へと立ち返るあり方
- 4 対象を批判的に眺めるのではなく、そのあるがままを受け容れまるごと愛し楽しもうとする姿勢
- 5 対象の表層的な観察に留まるのではなく、その深層へと突き進み本質を見極めようとする心構え

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

大学の煉瓦塀れんがべいに沿うて歩き煉瓦塀を外れて高等学校の前にさしかかると、白く立ち並んだ棒で囲われた校庭の黒い葉桜の下ほのぞくさくらの仄暗い叢くさむらから虫の声が聞えて来る。虫の声に少し足を緩め耳を傾け、更に虫の声を惜しんで高等学校の庭から離れないため道を右に折れ、そして左に折れると、立棒の代りからたちの植わった土手が始まる。左に折れた角で、はて！ と輝いた眼を前へ投げて私は小走りに急いだ。

前方の土手の裾すそに、可愛らしい五色の提燈ちようちんの灯の一团が寂しい田舎の稲荷祭いなりまつりのように揺れていたからである。近づかなくとも、子供達が土手の叢の虫を捕っているのだと分る。提燈の灯は二十ばかり。そして提燈の一つ一つが紅桃色藍緑紫黄などの灯をともしているばかりでなく、一つの灯が五色の光をともしているのである。店で買ったらしい小さい紅提燈もある。けれども多くは子供等が思案を凝らして自分の手で作った可愛らしい四角な提燈である。この寂しい土手に二十人の子供が集まり美しい灯が揺れるまでには①一つの童話がなければならぬ。

街の子供の一人がある夜この土手で鳴く虫を聞いた。次の夜は紅提燈を買って鳴く虫の居所を捜した。その次の夜は子供が二人になった。新しい子供は提燈が買えなかった。小さい紙箱の表と裏を切り抜いて紙を貼り底に蠟燭ろうそくを立て頭に紐をつけた。子供が五人になり七人になった。紙箱を切り抜いて明り取りに貼る紙を色どり絵を描くことを覚えた。そして智慧のある小さい美術家達は紙箱のところどころを円く三角に菱形に木の葉形に切り抜き、小さい明り窓を一つずつ違った色に彩り、更に円や菱形や紅や緑をつかって一つの纏まとまった装飾模様とした。紅提燈を買った子供も店で買える趣きのない提燈を棄て、自作の提燈を持つ子供も単純なイシヨウの提燈を棄て、昨夜携えた光の模様は翌日もう不満足で、昼は紙箱と紙と絵筆と鉄はさまと小刀と糊を前に日々新しい提燈を一心に創り、我が提燈よ！ 最も珍しく美しかれ！ と夜の虫取りに出かけるのであろう。そうして私の目の前の二十人の子供と美しい提燈とになったのではあるまいか。

私は目を見張はって佇たんだ。四角な提燈は古代模様風に切り抜かれ、花模様はな模様に切り抜かれているばかりでなく、たとえば「三

シヒコ」とか「アヤ子」とか製作者の名が片仮名で刻み抜かれているのである。紅提燈に絵を描いたのと違って、厚紙の箱を切り抜いてそれに紙を貼ったのであるから、その模様だけが窓になって模様通りの色と形で蠟燭の光が洩れているのである。そうした二十の灯が叢に射し照らされて子供達は悉く一心に虫の声を頼りに土手にしゃがんでいるのである。

A 「誰かバツタ欲しい者いないか。バツタ！」と、一人だけほかの子供から四五間離れたところで草を覗いていた男の子が伸び上ると突然言った。

「お呉れ！ お呉れ！」

六七人が直ぐ駆け寄って虫を見つけた子供達の背に重なるようにしながら叢を覗き込んだ。そして駆けつけた子供達が差し出す手を払い退け虫のいる叢を守るような姿で両手を拡げて突っ立った男の子は右手の提燈を振ると、再び四五間彼方の子供達に叫んだ。

B 「誰かバツタ欲しい者いないか。バツタ！」

「おくれ！ おくれ！」

C 四五人走って来た。全くバツタでも貴いほどに虫は捕れないらしい。男の子は三度び呼んだ。

「バツタ欲しい者いないか。」

「二三人近寄った。」

「頂戴な。頂戴。」

新しく近寄った女の子が虫を見つけた男の子のうしろで言った。男の子は軽く振り返ると素直に身を屈めて提燈を左に持ち代え右手を草の間に入れた。

D 「バツタだよ。」

「いいから頂戴！」

男の子は直ぐ立ち上ると握った拳を、それ！ という風に女の子の前に突き出した。女の子は左の手に提げていた提燈の紐

を手首に懸け両手で男の子の拳を包んだ。男の子が静かに拳を開く。虫は女の子の親指と人差指の間に移っている。

「あら！ 鈴虫だわ。バツタじゃなくなつてよ。」と、女の子は褐色の小さい虫を見て眼を輝かせた。

「鈴虫だ！ 鈴虫だ！」

子供達は羨ましそうな声を合わせた。

「鈴虫よ。鈴虫よ。」

女の子は明るい智慧の眼をちらと虫をくれた男の子に注いでから腰につるしている小さい虫籠を外してその中に虫を放した。

「鈴虫よ。」

「ああ、鈴虫だよ。」と、鈴虫を捕えた男の子は眩き、虫籠を顔の真近に掲げて眺め入っている女の子に自分の五色の美しい提燈を掲げて明りを与えてやりながらちらちらと女の子の顔を見た。

そうか！ と私は男の子がちょっと憎くなると共に、初めてこの時男の子のさつきからの所作が読めた我が愚しさを嘆いたのである。更に、あっ！ と私は驚いた。見給え！ 女の子の胸を、これは虫をやった男の子も虫をもらった女の子も二人を眺めている子供達も気がつかないことである。

けれども、女の子の胸の上に映っている緑色の微かな光は「不二夫」とはつきり読めるではないか。女の子が持ち上げた虫籠の横に掲げた男の子の提燈の明り模様は、提燈が女の子の白い浴衣に真近なため「不二夫」と男の子の名を切り抜いた所へ緑の色を貼った形と色そのままに女の子の胸に映っているのである。女の子の提燈はと見ると、左の手首に懸けたままたりと垂れているので「不二夫」ほど明らかではないが、男の子の腰のあたりに揺れている紅い光を読もうなら「キヨ子」と読める。この緑と紅の光の戯れを——戯れであろうか——不二夫もキヨ子も知らない。

そして、不二夫は鈴虫をやったことを、キヨ子は鈴虫をもらったことを、いつまでも覚えていようと、不二夫は自分の名が緑の光でキヨ子の胸に書かれキヨ子の名が紅い光で自分の腰に書かれ、キヨ子は自分の胸に緑の光で不二夫の名が誌され不

二夫の腰に自分の名が紅い光で誌されたことを、夢にも知らねば思い出しも出来ないであろう。

不二夫少年よ！ 君が青年の日を迎えた時にも、女に「バツタだよ。」と言って鈴虫を与え女が「あら！」と喜ぶのを見て

□ X □ の笑を洩し給え。そして又「鈴虫だよ。」と言ってバツタを与え女が「あら！」と悲しむのを見て □ X □ の笑を洩し給え。

更に又、君が一人ほかの子供と離れた叢で虫を捜していた智慧を以てしても、そうそう鈴虫はいるもんじやない。君も亦バツタのような女を捕えて鈴虫だと思ひ込んでいることになるのである。

そうして最後に、君の心が曇り傷ついたために真の鈴虫までがバツタに見え、バツタのみが世に充ち満ちているように思われる日が来るならば、その時こそは、今宵君の美しい提燈の緑の灯が少女の胸に描いた光の戯れを、君自身思い出すべし持つていないことを私は残念に思うであろう。

(川端康成『掌の小説』より)

問一 傍線 a のカタカナを漢字で書きなさい。

問二 傍線 b の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

問三 傍線①「一つの童話がなければならぬ」とあるが、この場合「一つの童話」にあたるのは課題文のどの箇所か。その箇所の始めと終わりの五字をそれぞれ抜き出しなさい。(ただし、句読点は字数に含めないものとする)

問四 傍線A～Eの五つの「」で括られた箇所からは、ことばを発した男の子の心の動きが読み取れる。それを示したものと
してもっとも適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- | | | | | | |
|---|--------|-------|---------|-------|-------|
| 1 | A―得意 | B―焦り | C―不安 | D―邪心 | E―慢心 |
| 2 | A―挑発 | B―優しさ | C―弱気 | D―不信 | E―無関心 |
| 3 | A―支配欲 | B―自慢 | C―諦念 | D―不満 | E―超然 |
| 4 | A―ひらめき | B―期待 | C―もどかしさ | D―焦らし | E―得意 |
| 5 | A―自慢 | B―配慮 | C―腹立たしさ | D―驚き | E―独占欲 |

問五 傍線②「明るい智慧の眼」の説明としてもっとも適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 男の子の勘違いを優しくたしなめる気遣い
- 2 男の子のもくろみを了解したという目配せ
- 3 男の子の悪戯をそれとなく戒める批難のまなざし
- 4 男の子がついた嘘を軽く咎めるメッセージ
- 5 男の子のユーモアのセンスを賞賛する尊敬の視線

問六 傍線③「虫籠を顔の真近に掲げて眺め入っている女の子に自分の五色の美しい提燈を掲げて明りを与えてやりながらちらちらと女の子の顔を見た」とあるが、このときの男の子の気持ちとしてもっとも適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 女の子が自分だけ特別扱いされてきまりが悪くなっているかどうかが確かめようとする気持ち
- 2 悪戯をした自分に対する女の子の批難の気持ちが収まったかどうかを見届けようとする気持ち
- 3 バッタだと思つた虫が実は鈴虫だつたことに女の子がどのような反応を示しているのかを確認しようという気持ち
- 4 顔に映つた五色の灯の配色の妙によつて際立つた女の子の美しさを心ゆくまで堪能しようとする気持ち
- 5 本当は自分のものにしたかつた鈴虫を与えてしまつた後悔を、女の子の喜ぶ顔を見て吹っ切ろうとする気持ち

問七 傍線④「男の子のさつきからの所作」が指すものとして適切とはいえないものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 一人だけ皆から離れた場所で虫を捜していたこと
- 2 虫を見つけたことを大勢の子供たちに知らせたこと
- 3 見つけた虫に皆が近寄れないようにして隠したこと
- 4 女の子がやつてくるまで何度も叫び続けたこと
- 5 捕まえた虫がバッタであることを強調したこと

問八 傍線⑤「この緑と紅の光の戯れを——戯れであろうか——不二夫もキヨ子も知らない」とあるが、この部分に表れている

作者の意図を説明したものとしてもっとも適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 傍観者である作者だけが光の戯れに気付いたことを確認し、密かに自分の胸中にしまっておこうと決意している。
- 2 いずれは結ばれることを暗示する兆候を思いがけなく目の当たりにして、男の子と女の子の将来を祝福している。
- 3 目の前の出来事を、遠く過ぎ去った作者自身の経験と重ね合わせ、ノスタルジックな想い出に浸ろうとしている。
- 4 知恵を絞った人為や目的実現のために弄した策以上の、作為を超えた一瞬の巡り合わせをほのめかそうとしている。
- 5 宿命や運命など人知を超越した存在の前では、人間はいかに無力でちっぽけな存在に過ぎないかを指摘している。

問九 空欄Xには同じ語が入る。その語としてもっとも適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 会心
- 2 安堵
- 3 満面
- 4 軽蔑
- 5 自嘲

問十 この文章について説明した次の文のうちで明らかに間違っているものを一つ選びなさい。

- 1 暗闇を背景にとりどりの色彩を配置した風景描写を行うことで、艶やかな雰囲気 작품을与える効果を狙っている。
- 2 子供達に芽生え始めた、まだ意識的にはなっていない異性関係の心理の機微を大人の立場から鋭く描き出している。
- 3 子供達の心の交流を描くことで、思春期に体験した純粋な恋愛感情を大人である読者に想い出させようとしている。
- 4 男の子の大人びた心理操作に対して、多くの人生経験を踏んできた年長者の立場から忠告している。
- 5 何気ない遣り取りや仕草に、すでに子供たちの人生を暗示する個性の発露が窺えることを示そうとしている。

問十一　この文章の作者が属するといわれている思潮、および、この作者と同じ思潮に属する作家の組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- | | | | |
|---|------------|---|-----------|
| 1 | 耽美派—谷崎潤一郎 | 2 | 新感覺派—横光利一 |
| 3 | 自然主義—島崎藤村 | 4 | 白樺派—有島武郎 |
| 5 | 第三の新人—遠藤周作 | | |

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

忍が岡のあなた谷中のさとに、何がしの院とてひとつの真言寺あり。翁いとけなかりしころ、その住僧をしりてしばしば寺に行きつつ、木の実ひろひなどして遊びしが、住僧かたへの人にむかひて、前住の時の事をなん語りしをきき侍りしに、寛永のころの事になん、將軍家谷中わたり御鷹狩のありし時、御かちにてこやかしこ御過ぎがてに御覽ましましけるが、この寺へもおもほへず渡御ありしに、折ふしその時の住僧はや八旬に及びて、庭に出てみつわぐみつつ、手づから接木つぎまして居けるが、御供の人々おくれ奉りて、御供に二人三人つき奉りしを、なかなかやんごとなき御事をば思ひよらねば、そのまま背き居たりしを、坊主なに事するぞと仰せられしを、老僧心にあやしと思ひていとほしたなく接木するよと御いらへ申せしかば、御わらひありて、老僧が年にて今接木したりとも、その木の大きになるまでの命もしれがたし。それにさやうに心をつくす事ふようなるぞと上意ありしかば、老僧御身は誰人なればかく心なき事をきこゆるものかな。よくおもふて見給へ。今この木もつぎておきなば後住の代に至りていづれも大きになりぬべし。然らば林もしげり寺も黒みなんと、我は寺のためをおもふてする事なり。あながちに我一代に限るべき事かはいひしをきこしめして、老僧が申すこそ実も理なれと御感ありけり。その程に御供の人々おひおひ来たりつつ、御紋の御物ども多くつどひしかば、老僧それに心得て、大きにおそれ奥へにげ入りしを、御めし出しありて物など賜はりけるとなん。いま翁もこの老僧が接木するごとく、老朽ちぬれども、ある限りは旧学をきはめて、人にも伝え書にもこのして、後世に至りて正学の開くる端にもなり、この道のために万一の助けともなりなば、翁死にてもなほ生けるがごとし。古人のいはゆる死しても骨くちじと言ひしこそ、思ひあたり侍れ。いささか我が身のために謀るにあらず、諸君も翁がこのころを信じ給へかし。

(注) みつわぐみつつ……年老いたようすで。「みづはぐむ」とも。

一 『駿台雑話』による

問一 傍線①の「かち」に相当する漢字表記を次の中から一つ選びなさい。

- 1 克
- 2 渴
- 3 徒
- 4 糧
- 5 且

問二 傍線②の「思ひよらねば」の部分の主語はだれか。もつとも適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 後 住
- 2 翁
- 3 將軍家
- 4 かたへの人
- 5 前 住

問三 傍線③「老僧が年にて」とあるが、この老僧のおよその年齢を漢字で答えなさい。

問四 傍線④の「かく心なき事」とは具体的にどういふことか。その内容を示した部分を本文中から抜き出し、始めと終わりの五字ずつで答えなさい。

問五 傍線⑤の「理」の読み方を現代かなづかいで答えなさい。

問六 傍線⑥の「老僧それに心得て」とあるが、それはどういう意味か。もつとも適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 相手が身分の高い人と分かった
- 2 相手の言うことの意味が分かった
- 3 相手が納得したことが分かった
- 4 相手が説明を受け入れないと分かった
- 5 相手と論争してもかなわないと分かった

問七 傍線⑦の「生けるがごとし」の「る」と文法上同じものはどれか。もっとも適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 めづらしき事をきこゆるものかな
- 2 よろづの遊びをぞしける
- 3 なほ奥つ方に生ひ出でたる人
- 4 うらうらに照れる春日にひばり上がり
- 5 我が身ひとつに限るべき事かな

問八 筆者がこの話を聞いて考えたことを説明したのもっとも適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 後世の人のために学び続ければそのうち必ず新しい学問が開ける。
- 2 身分の高い人はとかく結論を急ぐ判断をしがちだが、それは誤りだ。
- 3 何事もその結果を見ることのできる時を考えて実行すべきだ。
- 4 老年に何かをなしてもその行方を見ることが出来ないのはむなし。
- 5 自分の生存中に成果が出なくても後世の人のためなら力を尽くしたい。

問九 この文章の筆者は室鳩巢である。筆者と同種の学問分野で活躍した人物の名を次の中から一つ選びなさい。

- 1 賀茂真淵
- 2 新井白石
- 3 本居宣長
- 4 平田篤胤
- 5 荷田春満